

# 有限会社 キーポイントホーム



## ユ一ザ一訪問

### Y様邸

#### DATA

弘前市賀田 2015年10月竣工

- 延べ床面積/49.15坪(162.51㎡)
- 使用青森県産材/〈構造材〉ヒバ(土台)、スギ(柱)、カラマツ(梁)〈内装材〉スギ無垢材(床、腰壁、天井)、スギ集成材(本棚)、タモ集成材(階段)、ニレ(床の間地板)。

## 長生きできる「木の家」

### 柔らかく温かくて綺麗

ヒートポンプで湯を効率的につくり、冷めても瞬時に沸かす——電気とガスを併用した最新のハイブリッド給湯・暖房システムを備えたY様邸。完成して3年、寒さ知らずの快適な住み心地にご夫婦はご満悦だが、建て替える前の家は、寒い、暑い、湿気がこもるなど、不満を上げればきりかなかった。築50年になる中古住宅で、そこに28年間住んできた奥様の悲願は、「一生に1回は新しい家に住みたい」。見学に訪れた(有)キーポイントホームの展示場の、木に囲まれた空間をひと目見るなり、「ここに決めた」——。決め手は、柔らかく、木肌が綺麗な、県産スギであった。



スギの柔らかな木肌が出迎えてくれるエントランス

——展示場に行ったきっかけは何でしたか。

**奥様の話** 見学会があるとチラシで知ったんです。新聞の折り込みチラシだったね。キーポイントホーム1社だけじゃなく、何社かが一緒に見学会を開くということ、期間は1か月間でした。その間に行きたかったけど、どうも1人では行きにくくてね。そのうちに過ぎてしまったんだけど、たまたま長男が家に遊びにきて、これ幸いと、車で連れて行ってもらった

んですよ。キーポイントホームに電話したら、(阿保勝之社長が)どうぞ、ということだったの。

**阿保社長の話** 補足しますと、その見学会というのは、環境にやさしい省エネルギー・省CO2な家づくりを目指す弘前周辺の工務店5社が合同で開いたものなんです。でも、当社の常設展示場の見学なら、いつでもOKです。奥様が来られたのは4年前(2014年)で、合同見学会が終わってからです。

が、そのほうが結果的には、マンツーマンでじっくりと応対できて良かったです。

**奥様の話** それ以前にも、新聞に入ってきたチラシを見て、近くの工務店とか大工とかの見学会には行っていったんですよ。いつかは建て替える計画だったからね。見に行ったどの家も、みんな良かった。みんな新しかったもの。いちばんの憧れは、「新しい家」だったんです。住んでいる家がかく古かったから。消費税が上がる前にか、建て替えの時期について考

え始めるようになって、具体的になつたのは主人の定年が近づいてからでした。決まったときには消費税が8%に上がったちゃっていましたが、それはしょうがありません。

——息子さんが良いタイミングで来られたのですね。

**奥様の話** あのととき、長男が来なかつたら展示場に行ったかどうか……。合同見学会のチラシの写真の中で、いいなって思っていたのがキーポイントホームだったんですよ。それで見に行つただけで、行って見て、良





量と、建具の障子や木枠、天井の木目、簡易床がマッチした和室

かった。中に入って、ひと目見て、ここがいい、つてその場で決めちゃったんです。即決だね。そのあとで、お父さんを展示場に連れて行ったんです。決めてきたから見に行こう、つてね。

## 県産材にこだわる理由 健康は地域と共にある

——決め手は何でしたか。

**奥様の話** 「木」ですね。スギ。床もスギだし、腰壁も、天井もスギ。柔らかくて、あつたかそうで、赤味ある木肌の色が綺麗だった。ともかく、気に入っちゃったんですよ。

——その他にも見学されたという工務店の住宅は、床とかは木ではなかったのですか。

**ご主人の話** 木だったよ。無垢材って言ってたもの。でも、堅かったね。キーポイントホームのスギの床とはぜんぜん違って。足触りですぐ分かったな。

——無垢材は無垢材でも、輸入物だったのかもしれないね。チェリーとか、ナラ、カバ

とか中国産の広葉樹。広葉樹は堅いですから。

**阿保社長の話** ひと口に無垢材と言いますが、県産もあれば輸入物もあります。低コストだから、輸入物が使われているわけです。予算的に合わせるためにね。中国産の無垢材を張って、それで「木の家」と称しても別に間違いではありません。でも、当社があくまでも「県産」にこだわるのは、目指すところが「地域環境」にあるからです。近場の山のスギを使って家を建て。木材資源が地域で循環することによって、山の手入れが進み、間伐が行き届いた森林は生長過程で二酸化炭素をよく吸収してくれます。山も、地域も、家も、健康な環境を保つていなければ、そこに暮らす人間は長生きできません。健康寿命が延びる家づくりの大事さを、展示場の県産スギを通じて発信しています。

**奥様の話** 以前の家のあの寒さからともかく解放されたかつ



白い壁とスギの木目が美しく調和した洋室

た。歳とともに耐えがたくなっていたからね。シベリア並みでしたよ。シベリアに行ったことはないけど、わたしの父親が戦争でシベリアに抑留されて、思っ出話で、寒くて寒くてと言っていたもんですから。

**ご主人の話** 反射式のストーブをがんがん焚くわけだよ。そうすると、断熱材なんか入っていないから熱で屋根の雪が融けて、その雪が凍ってツララになるんです。こんな太いツララ

に……。

**奥様の話** 家の脇が道路だから、ツララをそのままにしておけば危ないわけです。通行人にぶつかったりすればたいへん。ツララを落とすのがまた一苦労で、ついで、落ちると逃げるんです。しょっちゅうそれ、やっていました。建て替えた家は三角屋根だけど無落雪だし、ツララから解放されただけでもありがたいですよ。

**ご主人の話** 津軽ではヒバがよく言われるけど、スギを見直したよ。柔らかいし、温かいし。



娘さんのお気に入りの造り付けの本棚はスギ集成材

それまでスギの木肌に触ったことなんかなかったけど、手と足がスギの良さを認識したんだね。

**奥様の話** 最初に訪れたとき、阿保さんから、合同見学会の間は過ぎたけど、連絡すればあとの4社も見学できますよ、って親切に言ってもらったんだけどね、でも、こっけい、って。もう決めたからって。とにかく部屋のスギの色が良かった。木のあったかさに包み込まれた気がしたんだろうね、きっと。



有限 株式会社 キーポイントホーム

弘前市泉野3丁目11-11  
TEL.0172-88-7705 FAX.0172-88-7706  
http://www.ki-pointhome.com/  
E-mail : staff@ki-pointhome.com



「あもり産・木の家」常設展示場

# 有限会社 キーポイントホーム



「ペットとの暮らしが健康寿命を延ばす」をテーマに、(有)キーポイントホーム(阿保勝之社長)は2018年10月、弘前市で「ペットとの豊かな暮らしセミナー」を開いた。講師は、著書『ピンコロリの新常識』で知られる医学博士の星旦二先生。高断熱で冬暖かく、床は無垢材、壁は漆喰の自然素材に囲まれた住空間で暮らすことが「元気で長生き」に繋がる——星先生の提唱は、キーポイントホームの近くの山の木を使った家づくりの目的とぴたり重なる。さらに、ペットとの心豊かな暮らしが健康長寿だという点でも一致、星先生を招いてのセミナーが実現した。

健康に良い家づくりを  
「短命県返上」の施策に

## ペットとの豊かな暮らしセミナー

星旦二先生(首都大学東京名誉教授)講演

# 「ペットとの暮らしが健康寿命を延ばす」

「青森県が進める『短命県返上』に、ぜひ住まいも加えてほしい——阿保勝之社長がそう提案したのは2015年1月

のこと。県庁で行われた第7回おもりの産木造住宅コンテストの表彰式で、特別賞を受賞したコメントの中で述べた。



講演する星旦二先生。断熱性が高く、温もりある無垢材を使った空気がきれいで“暖かな家”に暮らすことが健康長寿の決めて、と1時間半にわたり説いた



「保温力に優れたスギを使うなど暖かくて健康に良い家づくりを普及させる施策を打ち出してほしい」と。三村申吾知事がテーブルの向かいで頷いていた光景が思い浮かぶ。

住まいが健康でないとも健康になれない——その主張は星先生もまったく同じで、

今回のセミナーでも、「全国各

自治体が健康長寿のための『健康住宅』を行政施策として取り組むべきだ」と訴えた。

「健康を育む家づくり」がキーワード。ポイントホームのこだわりだ。それには家を取り巻く地域環境がまず良好でなければならぬ。木材の運搬に伴う

二酸化炭素の排出を抑制するため、地域の木にこだわって使っているのはそのためで、建てた高断熱・高気密の低燃費住宅も省CO<sub>2</sub>に繋がる。性能の高い住まいは人の健康にも地域環境にも良いのだ。

人に快適な空間は、ペットにも快適だ。今やペットは家族同然。家の中で我が子のようにペットを飼っている家庭は美に多い。朝夕愛犬を連れて散歩する光景を毎日のように目にするにつけ、いずれペット産業が住宅業界にも押し寄せてくるのではないか——

阿保社長はそう予見した。もともと無垢材と漆喰など自然素材を使った暖かくて「空気の良い」家づくりを実践してきたが、気が付けば、そのままペットにも住み心地の良い家ななかった。「木の家づくり」の頭に「ペットと共に住む」のキャッチフレーズを付加してから1年になる。

そんな中で阿保社長は、ペットを飼っている人ほど健康寿命が長い傾向がある——とする星旦二先生の講演を聞く機会に恵まれる。星先生は、建てた自宅が寒い欠陥住宅だった体験を基に、まず「家が暖かい」ことが健康の基盤だと説く。その上で、ペットに愛情を注ぐ暮らしが健康寿命を延ばす、と。まさにキーワード「ポイントホームの家づくりは「ピンピンコロリ」を実現する健康住宅だ、とお墨付きを得た思いがした、という。

阿保社長は東京の星先生宅を訪ねた。意気投合。交流が

始まった。今回の弘前でのセミナー開催を星先生は快諾した。

## 暖かい健康住宅に住む 根源的な「ゼロ次予防」

星旦二先生の講演 「世界一長寿だった沖縄が今や37位に順位が下がった最大の原因は、何だと思えますか？」

星先生が会場の参加者に問いかける。

「台風に壊されないように木造から鉄筋コンクリート建て替えた結果、海砂の塩分で鉄筋が錆びてカビが発生し、閉塞性肺疾患が増えたのがその主な要因なのです」

住環境がいかに大事か。一生でいちばん長い時間を過ごす場所が「住宅」で、その住まいが、カビなどの環境であれば、長い間暮らすうちに体調を崩す。その結果、沖縄の平均寿命は下がってしまったよう

だ。  
星先生は、著書『人生を変



える住まいと健康のリノベーション』（甲斐徹郎氏との共著。新建新聞社発行）で次のように述べている。

〈床は無垢材で、壁は漆喰で、高断熱の暖かい家に住むことが最も大事だ。健康に生きるということに「暮らしの場」は密接につながっている〉と。

住まいが暖かくなるだけで、「心が温かくなる」「家全体を広々と使える」「体がよく動かせる」ようになる。これが星先生の提唱する「ゼロ次予防」に繋がるのだ。

星先生は同著でこうも述べている。

〈実は私たちが食べる食料の重量と、呼吸する空気の重量を比べると、空気のほうが10倍近く重い。住宅が変わればそこで呼吸する空気も変わります。『空気の質』は、『睡眠の質』など、心と体の健康状態に大きく影響します〉

床の絨毯は無垢材に、壁のビニールクロスは漆喰に塗り

替えるだけでずいぶん改善される、と訴えている。

「青森県は短命県だと言われていますが、原因は塩分だけではないのです」と星先生。「では、なぜ塩分の摂取量が全国4位の長野県が日本一平均寿命が長いのでしょうか。塩分と血圧はまったく関係ないものだということが最近分かってきました。その証明が長野県です」。会場に驚きが広がった。

「脳溢血や脳梗塞で死ぬ原因は、塩分ではないということですね。今から50年以上も前、全国に先駆けてそれまで外にあった便所や風呂を家の内部に移して設けるようになったのが長野県なんです。寒い外から家の中に移した。それが寿命を延ばした最大の要因なのですが、そればかりではありません。長野県は公民館の活用頻度も、図書館の本の貸し出し数も日本一。つまり家に閉じこもらずに、どんどん外に出て、人と交流し、積極的にい

ろいろ勉強しているということ。この前向きな生き方こそが健康寿命を延ばすことに大きく繋がっているのです」

住環境も含め、生活環境や社会環境、自然環境を整備して、疾病をより本質的に予防するのが「ゼロ次予防」。星先生は、予防医学の研究を進める中で、1989年からこの「ゼロ次予防」という概念を提唱してきた。目的は、寝たきり老人にならず、元気に生きて人生を最後まで前向きに生きるため。

予防医学の分野では、疾病予防を1次から3次までの3段階で考えるのが一般的で、生活習慣の見直しなどで病気の発生そのものを防ぐことを1次予防、早期発見・早期治療を2次予防、再発防止を3次予防という。暖かい健康住宅に住むことこそが、根源的予防となるゼロ次予防なのだ。

日本は世界的な長寿大国で

はあるが、その実は、寝たきり老人が多い国だ。そんな寝たきりの長寿(ネンネンコロリ)ではなく、ピンピンと元気に生きてコロリと死ぬ、つまり長い人生を最期まで元気に楽しむ——これが星先生の推奨する健康長寿な「ピンピンコロリ」の生き方である。

「都会が長生きだと思う人？実は全国で早死になのは東京など都会が多いんです。都会ほど早死にで、医者不足の山奥ほど平均寿命が長い傾向にあります。下流よりも上流に住む人ほど長生き。『体調が悪ければ病院に行けばいい』と考えるのが都会で、『健康は自分で守るもの』というのが医療施設の少ない地域の考え方。つまり、健康を守るために必要なのは『依存心よりも自立心!』なんです」

### 愛情注いで。ペットを飼う犬を散歩させ外と交流

ペットを飼っている高齢者

は長生き、という統計がある。

ペットを飼ってよく世話をしている人が圧倒的に長生きなのだ。「ただ、ここで注意しなければならぬのは」と星先生は前置きして、「ペットを飼っていれば長生きというのは、ほんとうは正しくない。『ペット』が原因で、『長生き』が結果なのではない。その逆な

んです」

どうしてか——。ちなみに、ペットを飼っている人はどういう人か。収入のある人が多い。定年退職して隠居してしまいうのではなく、働いて収入を得る。働くためには健康でなければならぬ。健康に留意する。収入を得て経済的余裕があるからこそペットが飼える。







人間もペットも快適に暮らせる「木の家」を提案するキーポイントホームの常設展示場



- 都市部より医師が少ない田舎が長生きだ
- ペット飼って世話している高齢者は長生きだ
- 先進国では統合医療が大いに活用されている
- 前向きに生きている人の方が、7.5年長寿だ
- 外出しない人は、6年後には、約5割が死亡する
- 総コレステロール高い人(250-290mg/dl)が長生き
- 小肥りの人(BMI24-28)が長生きだ

「単にペットを飼うだけではだめで、動物を愛する心がないとだめなんです。愛情を注ぐことで心が癒される。ペットを散歩させながら『外』と交流する。『内』に籠らないでどんどん外に出る。人と交流する。そうした前向きな気持ちが、病院や薬に頼らず、自分の健康は自分で管理するようになる。気持ちが前向きになる。だから、ペットを飼っているから長生きするのではなく、健康で働いて収入を得、ペットを

飼って世話をする心豊かな暮らしが長生きに繋がる——ペットは、結果なんですよ」  
 今日、行く、所がある。今日、用がある。これが「きょういく」と「きょうよう」。外に出ることが大事じゃなく、外に出よう」という心が大事だ。あそこに行けば卓球、囲碁、将棋ができる。楽しいこと、わくわくできること、そうした励みが人生を前向きにさせる。  
 「まず暖かい家に住むこと。定年後も働いて収入を得、ペット



を飼い、愛情を注いでペットと共に心豊かに過ごし、血圧やコレステロールを下げる薬に頼らず、酒は楽しく飲み、おいしいものを食べるデブのほうが長生きなんですよ、皆さん。安心してください——どっと笑いが起きた。

家族の一員としてペットを飼っていれば、辛い「死」に立ち会うことにもなる。星先生は自身のエピソードを披露した。

「僕の家で飼っていた犬が高齢

でボケてきた。そんなときに子供が猫を拾ってきて、一緒に暮らすようになったら、犬のボケが治ってきたんです。ついに犬が臨終になったときも猫は2日間、犬の背中であっていた。猫の「手当て」ですね。そういう姿を目の当たりにすることが、子供の心が優しく育つことに繋がると思っています。昔ながら曾爺ちゃん、曾婆ちゃんの家で亡くなったものだけど、今は病院で最期を迎えるので、死というものが日常生活から

遠くなった。それを、ペットが代わって教えてくれているんです。愛情を注いで育てたペットが死ぬ悲しみを体験することで、命あるものへの慈しみもわいてきます。心豊かになるのです」

## 長寿の秘訣は「暖かさ」 行政で「健康住宅」推進

「健康長寿」と「住宅」は密接に繋がっている——そう主張する星先生は、ご自身が「欠陥住宅」に住んでいたという実体験が基になっている。

星先生が東京都内に住宅を新築したのは2002年。冬は寒かったが、まさか自宅の熱環境が劣悪だとは思ってはいなかった。「冬だから寒いのはしかたない」と。2005年から住環境と健康との関係を明らかにする研究チームに予防医学の研究者という立場で参加することになる。これが自宅を熱環境という視点から客観的に見直す機会となった。

「真冬2月の夜中の寝室の温度が6・4℃だったんです。測定したのが家を建ててから10年後のことでしたが、それまでは冬だから寒くて当たり前くらいにしか考えていなかったんです」

研究が進むにつれ、星先生は高断熱住宅に宿泊体験する機会があった。「わが家とは比較にならないほど暖かくて熟睡できた」という。住宅の断熱性能と健康の間には予想以上の因果関係があることが明らかとなった。「寒い住宅が健康寿命を縮めることは疑う余地がない」(共著『人生を変える住まいと健康のリノベーション』)という結論に至った。

断熱性の低い住宅は結露する。窓ガラスに付く水滴が結露だ。結露がカビを発生させる。ガラスだけでなく室内の壁にも、壁の中にもカビができる。カビは、ビニールクロスや接着剤や合板に含まれる有機溶剤を出す。カビを餌とし

てダニが増える。劣悪な住環境になる。

星先生は6・4℃に衝撃を受けたその年から大掛かりなリフォームに取りかかった。2階の寝室、リビングから始まり、断熱改修や壁の漆喰塗り、床の合板を自然素材の無垢材に張り替えるなど合計4回にも及んだ。

「暖かくなったわが家に正月、子供3人が孫を連れて泊まりにきてくれました。寒い家には

人が集まらないのです。暖かくなったことで、『心も温かくなる』『家全体が広々と使える』

『体がよく動かせる』。まさに健康住宅こそが、根源的予防であるゼロ次予防です」

星先生はまとめとして——健康長寿の秘訣は、住まいの「暖かさ」。塩分だけが短命にしているのではない。今後は全国各自治体が健康長寿のための「健康住宅」を行政施策として取り組むべき、と強調。



「暖かい住宅で、心と体を温め、死ぬまで前向きに元気で過ごしませう」と締めくくった。

■星旦二(ほし・たんじ)先生  
プロフィール

1950年、福島県生まれ。首都大学東京名誉教授。福島県立医科大学を卒業し、東京大学で

医学博士号を取得。東京都多摩市をはじめ全国各地自治体などと共働し、寿命とさまざまな要因との関連を大規模調査するなど「健康かつ幸せな長寿」に関する研究と提案を続けている。著書に『ピンピンコロリの法則』『おでかけ好きは「長寿の秘訣」』『ピンピンコロリの新常識(主婦の友社)など。

## 「わんわん相談室」開設 ペット連わ可の展示場

阿保勝之社長の話 弊社では、ちょうど1年前の2017年10月に、ペットの犬に関して

相談できる「わんわん相談室」を開設しました。しつけのこと、フード(食べ物)のこと、わんちゃんと一緒に暮らす住まいについてなど、対面してあれこれ相談できる「場」として設けたものです。

そうしたしつけとか、食べ物の問題に直面するようになって、

弘前市内ではペットの相談をできる所もなく、また飼い主同士が集う場所もありません。実際にわが家でわんちゃんを飼い出すようになってから、



星先生の講演に引き続きキーポイントホーム内に開設した「わんわん相談室」について説明する阿保社長



# 建築組パックス 有限会社



## ユ一ザ一訪問

佐藤 様邸

### DATA

八戸市是川 2018年12月竣工

- 延べ床面積/35.5坪(117.15㎡)
- 使用青森県産材/カラマツ(土台、外壁、内壁、梁)、アカマツ(梁)、スギ(柱、大黒柱、天井、建具、手摺り)。

## 毎日更新 されるブログ 建築士の視線で簡潔に

外壁に板を縦張りした家——。周囲の家並みにサイディング張りが多い中、その外観はいかにも建築組パックス(甬らしい「木の家」だ。大西昇社長が所有する山から伐り出したカラマツを多用したという佐藤様邸。切妻屋根の棟から半分、片側を下げ、段差の壁面に採光の窓を付けている。その設計が大西社長の細かな配慮で、横長の小さな窓があるだけで室内の明るさは随分違う。玄関でパパに抱っこされて迎えてくれたお嬢ちゃん、パックスのブログ(2018年6月22日付)に掲載されていた上棟式の記念写真で頬に両手を添えて「いい顔」していた友芽ちゃんだ。

レンガタイルの耐火壁を背に薪ストーブが燃えていた。吹き抜けになったリビングの上部に勾配天井が見えている。床はクリ、内壁はカラマツ、勾配天井にはスギが張られた木の空間だ。1階で戸があるのは寝室と水回りだけ。2階の子供部屋も壁で2つに分けただけで、薪ストーブ1台の熱が開放された家全体に行き渡る効率的なプラン。友芽ちゃんが分厚い板の階段を上がって行く。パパも付いて行く。吹き抜けの手摺り越しに顔をのぞかせた友芽ちゃんに、下からママが「いい顔して」。頬に両手を添えたお得意のポーズを、パチリ。

——大西社長の娘さん、息子さんと、奥様は小・中学校が同じだとか。



お得意の「いい顔」のポーズをするお嬢ちゃんのお友芽ちゃん

**奥様の話** ええ、そうなんです。パックスを知ったのはネットなんですけど、初めはそんな繋がりがあるとは思っていませんでした。

——大西さんのブログは読まれましたか。

**奥様の話** 読みました。びっくりしましたね。毎日更新されているんです。休むのは日曜くらい。よく毎日毎日こう書けるも



「戸」が無く、開放的で見通しのよいリビング

のです。開くたびに更新されているから、次の日もまた読みたくなるんです。

—— 大西社長はもう10年以上も前からブログを続けているのだそうです。

**奥様の話** そのことにもびっくりでした。ブログを遡って10年前のブログから全部読みましたよ。

—— 読んで、どう思われましたか。

**奥様の話** “建築士の目”で書いていますよね。現場



6寸角のスギの大黒柱



スギが張られたリビングの吹き抜けの勾配天井



これ1台で家中の暖房をまかなう薪ストーブ

のこととか、「木」のこととか、プレカットと手刻みの違いとか、読んで初めて知ったことがたくさんありました。専門的な内容だけど、大西さんの文章は簡潔で分かりやすい。読み手に伝えるように書いているということですね。お子さんたちと同じ学校だということもそうですけど、実はもう一つ、見に行った完成見学会の施主も中学校の同級生で、これにもびっくり。縁があるなと思いましたね。大西

さんの息子(大西洋平)さんは宮大工で、パックスの現場で棟梁として働いているそうだから、まったく知らないところに頼むより安心感がありますよね。

——二者択一でパックスに決めたとか。

**ご主人の話** 展示場とか見学会とか何軒か見て歩いて、最後は2社に絞り込んだんです。パックスと、もう1社の工務店。私も娘もアレルギーがあるの



2階ホールに取り付けられたカウンターはお嬢ちゃんの勉強机とパパのテーブル

で、「木の家」を建てているところが第一条件でした。2社にこっちの要望を言ってみて間取りを作ってもらったことにしたんです。

——どんな要望でしたか？

**ご主人の話** まずは新ストープ。念願だったのでこれは外せません。それと吹き抜け。階段は見える所にあつて、子供が登校するときも、学校から帰ってきても階段を上り下りする姿が見えること。2階のホールを広く取ってカウンターを付ければ机代わりになるし、そこで勉強していれば吹抜けの手摺りから見えますしね。ともかく家全体を開放的にして常に誰がどこにいても分かるようにする。それと寝室が1階にあること。

## 陽の動きに合わせて窓の配慮が細かな間取り

——図面にはどんな違いがありましたか？

**ご主人の話** 工務店のプラン

は箱を2つ重ねたような総2階。大西さんののは一部2階建て。形は違うもののどちらも要望は満たしていました。でも、違いを感じたのは、なぜそういう設計にしたかという大西さんの説明でした。朝はこっちら陽が昇るからここに窓を付けて光が入るようにし、昼はこの窓から、夕方は……といった細かな配慮でした。実のところ私、工務店のほうの家の造り方にも魅力を感じてはいたんだけど、最終的には妻の選択に任せました。



子供部屋の前には造り付けの本棚が

——上棟から竣工までけっこの時間がかかったようですが、内心、気が急いだのではありませんか？

**奥様の話** その間、アパートを借りていましたから、早く完成してほしいのは山々でしたけど、大西さんのブログを読んです、手刻みのできる応援の木工がなかなか見つからないのが原因だと分かっていました。休日に現場を見にくると、息子さんがひとり遅くまで頑張っていましたよ。家の中の床も壁も天井も板を一枚一枚張って、手間のかかる造り方をしているのを見て分かっていましたからね。生涯住むのだから、急がず、丁寧な家づくりのほうを優先させることにしたんです。

**ご主人の話** 家の裏は崖になつていて、向こうには畑が広がっているだけだから、その畑のほうの道を車で帰ってくるのと、高台に建つわが家が見えるんですよ。夢が叶ったという感慨が湧きますね。



**PACS**  
Perfect Architecture Consulting System

## 建築組パックス株式会社

八戸市大字新井田字石動木平1-1  
TEL.0178-25-6020 FAX.0178-25-5542  
http://kenchikugumi.jp  
E-mail:pacs@kenchikugumi.jp